

磯焼けの海を生かす

中央水産試験場

後志南部地区水産技術普及指導所

研究の目的

北海道南西部日本海沿岸で長期間にわたって続いている磯焼けの原因が、そこに高い密度で生息しているキタムラサキウニによる海藻類に対する食害であることを実証し、磯焼け地帯で漁業生産を増大させる手法を確立する。

研究の成果

- ① 磯焼け地帯（写真1）でウニを除去することにより藻場が形成され（写真2）、周辺から侵入するウニを継続して除去することにより、多年生のフシスジモク（ホンダワラ類）が優占する安定した藻場へと変わった（図1）。
- ② このことにより、磯焼け現象が続く原因は、キタムラサキウニの海藻類に対する食害であることを実証した。
- ③ 除去した身入りの悪いウニを造成した養殖場あるいは舟入り澗に高密度（40個体/m²）に収容し、魚肉や養殖したコンブを給餌することによりウニの身入りが大幅に向上し（写真3）、漁業生産の増大に結びつくことを明らかにした。
- ④ 現在、これらの成果をもとに、回復した漁場の有効な利用方法や、除去したウニの高密度肥育の実用化技術開発を進めている。

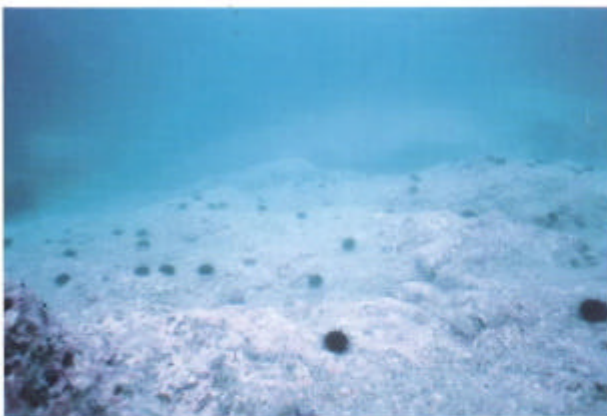


写真1 ウニが優先する磯焼けの海

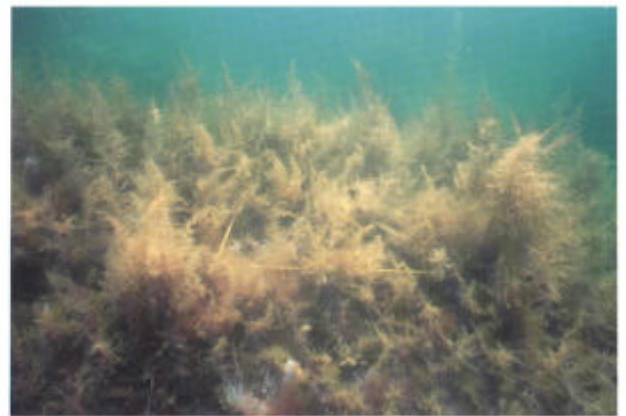


写真2 ウニ除去により形成された藻場



写真3 除去したウニに養殖コンブを与えて身入りの向上に成功

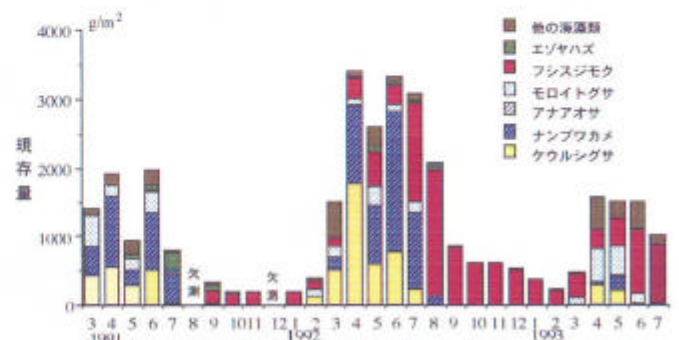


図1 ウニ除去により磯焼け地帯に形成された藻場の季節変化